

## 地域情報ゼミナール CI (その1)

2 units 3rd-year(1st semester)

Tetsuya Toyoda · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

**Target)** この授業は、地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について、地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている。「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から、受講者が自らテーマを設定し、卒業研究(卒業論文作成)という最終目標に向け、地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない、論理的考察を深めることを目的とする。

**Outline)** 人文地理学ゼミナール

**Keyword)** *geography, spatial structure, regional problem, geographic information system*

**Fundamental Lecture)** “**Human Geography I**”(1.0), “**地域構造論研究 I**”(1.0)

**Relational Lecture)** “**地域構造論研究 I**”(0.5), “**Human Geography I**”(0.5), “**社会統計基礎論**”(0.5)

**Notice)** 本ゼミナールの受講にあたっては地域情報ゼミナール CII と併せて通年で履修すること。4年次向けに開講される地域情報ゼミナール CI (その2) とは、単位の重ね読みができる。

**Goal)** 自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない、レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる。

**Schedule)**

1. 人文地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている。3年次では、受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづいた個人調査をおこない、地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる。そのための最初のステップとして、自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、夏季個人調査に向けた準備をおこなう。
2. 個人研究にせよ卒業研究にせよ、受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である。また、参加者全員が真剣な討論をおこなうことで、切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている。
3. なお、両学年とも、発表時期など具体的なスケジュールは、地域情報ゼミナール A, 地域情報ゼミナール B, 地域情報ゼミナール D と密接な連携をとりながら、受講者と相談の上で決定する。

**Evaluation Criteria)** 授業への取り組みと討議への参加意欲、報告内容の水準を

もとに評価する。なお、成績評価については地域情報ゼミナール担当教官の合議のもとに判定する。

**Re-evaluation)** 行わない

**Textbook)** 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社、¥2,500

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218806>

**Contact)**

⇒ Toyoda (+81-88-656-7154, [toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp)) MAIL (Office Hour: 前期・後期 月曜日 16:30~ 17:30)